

5. かき個々の成育又は育苗附着数の多かつたことでもよると思われるが7月の養成期間で収射できたことは一応成功と言つて良いと考える。

#### 所 感

1. 育苗の荷運輸送は荷主又は船委せがよつたが専員を派遣して荷運輸送の細心の注意を払う必要がある。
2. 養成管理は現地に専員を常駐せしめ日々の養殖場の模様（水質測定プランクトンの調査）を調査測定せしめ日の成育率との関係分析施設の管理等に専念せしめると良い結果が得られるのでそのように試験研究を進めて行きたい。

### ツクシアマノリ増殖試験

真 良 侯 得、久 高 喜 八 郎

1. 趣旨 人工育苗を取入れたのり増殖率による沿岸漁民の生産向上を図る
2. 試験方法及経過

糸状体の培養についてはビニール製トロ箱内で互換からかき殻への孢子付けを行いその儘トロ箱内に収容して室内の直射日光の当たらない場所において1週1回の換水を行つて培養するこれは前年同様であるが前年試験で海水は外海水（那覇市吉狭町市営住宅裏海水）を過濾して使用し換水の初度培養器及び糸状体附着器の洗滌を行つた故に本年は青黴の発生もなく順調に発育し7月頃ではかき殻の全面を覆う位に拡大し色も紅紫色から灰藍色に変わった7月下旬の水温低下期頃から糸状体孢子の出現状況の検査調査を行つていたが8月初旬はじめて孢子形成が観察されたのでその1、2枚をシャーレーに移し孢子放出の観察を続けた。10月22日シャーレー収容のもの孢子放出が見られたので同日糸状体附着器をヒメントタンクに移し網菜への孢子付け準備を取り掛つた。

- イ ヒメントタンクは内径5.1cm×7.5cm×5.5cm大のもので海水を（深さ3.4cm）入れ室外かき海水の当たらないようタンク上12.0cmの高さに防雨措置をした。
- エ 糸状体附着器は糸状体面を上にして置面を敷き付けた。
- ハ 網菜はツレモナ40本合供系で1.5cm目（4寸目）12折長さ6m（20尺）ものを用いた。先づ網を環状に（径4.5cm）巻きかゝるく網りタンク上へ敷いた丸棒に掛けるのであるがこのとき網の半分は収容海水に浸るようになる次に後の半分を海水に浸して約50秒毎にこの操作を繰返して放出される孢子の附着を計つた。この操作を50分続け後網の全部を収容海水に漬け浸漬時間は9時から12時までとし正午に引揚げて懸垂し（日陰に）14時に浸漬して16時に揚げ18時から翌日の8時まで浸漬した。10月25日に開始し24日以降は8時～12時、16時～20時は懸垂、12時～16時、20時から翌日8時まで浸漬時間としこれを11月1日まで繰返し12日に併出入江に網菜敷設とした。